

梶川流域の今と路網の影響



2019-05-21 落ち葉が流されて剥き出しになった
ヤクシマヤツシロランの根茎



2019-05-21 増水による落ち葉や腐葉土流出
タブガワヤツシロラン自生地



2015-01-15 治山ダム 工事に伴う林道開設は
低地照葉樹林そのものを減少させる



2014-09-25 沢を埋める林道工事で出た土砂
奥の尾根は世界自然遺産登録地



2019-05-21 杉植林地皆伐後 杉苗シカ被害の防護柵



2015-02-20 杉植林地皆伐 右の森はタブガワヤツシロラン
自生地 スダジイなど立ち枯れや林内の乾燥化が進行



2019-05-21 タブガワヤツシロラン自生地から
今年の皆伐地が見える



2015-01-12
治山ダム越しに
希少種自生地を見る



2019-05-21 大雨により梶川に架かる橋が壊れる

雨の日の梶川の森

P.1 梶川流域地図の黒丸



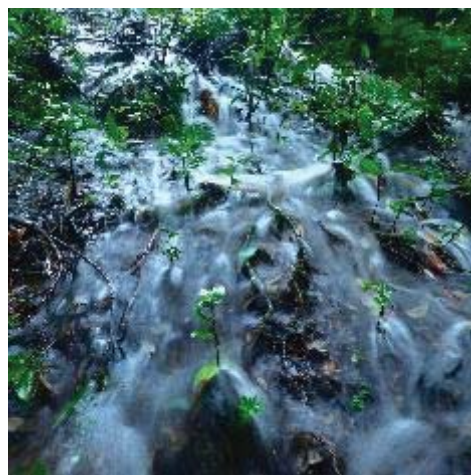
皆伐地の作業道にあふれる



雨水



作業道からあふれた雨水が急流となって照葉樹林に流れ込む（右奥が梶川の本流）



2015.07.20 梶川伐採地の作業道から溢れた雨水は、ヤクシマヤツシロランなどが自生している森に流れ込んだ。激しい水流に落ち葉や腐葉土が流されていく。菌類の菌糸を食べ生きるヤクシマヤツシロランには、落ち葉や腐葉土は不可欠である。

©山下大明

一湊川源流の林道工事の森への影響



2020年1月 一湊奥岳林道の今

P.4 一湊川流域地図黄丸部分



①一湊林道から枝分かれした奥岳林道はほぼ完成している。②～⑥さらに、吉田集落から延びる作業道に接続して、従来の道を拡幅しつつ新たな林道工事が進行中である。⑦手前左側が従来の作業道。奥が切り開かれ拡幅された工事中的林道。

花揚川、鳴子川流域の今と路網の影響



2018-09-24 伐期の杉植林地に路網(作業道)の開設
(路網=植林地内を移動する重機の道)



2018-09-24 保護樹帯を横切る路網
この保護樹帯は林齢150年以上の照葉樹林



2018-09-24 保護樹帯は植林した苗木を、風や雨などから
保護するため囲いとして残されている。
保護樹帯の木を残すということではない。



2018-09-24 路網開設により伐られたスダジイ
希少種(カンランなど)の自生地放置されている



2018-09-28 近くの舗装された林道から雨水が流入し
菌従属栄養植物の自生地が崩壊していく



2018-09-28 ハルザギヤツシロランなどの自生地を
覆う流木



2018-09-26 雨水の流入による落ち葉腐葉土の流出

近くにヤクシマソウ
自生地



2018-10-09



2018-09-26 雨水の流入による腐葉土流出は、
希少種の生存を脅かしている。